1989年 1月19日

長崎市長　本島　等　殿

日本科学者会議全国幹事会

昨年、長崎市長が天皇の戦争責任に関して発言されて以来、様々な評価がマスコミなどでとりあげられてきました。そして、時がたつほどに、何が道理であったかがますます鮮明になってきたと思います。今では市長発言を否定する声は、多かれ少なかれ、ためにする風潮以外にないことがそのことを端的に物語っています。当時は天皇賛美一辺倒の風潮の中で市長が発言されたことで、多少なりとも天皇の歴史的評価に国民が思いを馳せる機会ができたことは、日本における自由と民主主義を守る上で大変大きな意義をもっていたと思います。その意味からも、私どもは改めて、長崎市長の勇気と良識に敬意を表明いたします。

日本科学者会議は、日本における大学や研究機関などで科学・技術の研究や教育に携わる者の集まりですが、もとより思想・信条にはこだわりません。しかし、世界の戦争の歴史の中で、科学者が時には大量殺人兵器の開発に加担した苦い経験を反省し、常に世界の平和と人類の進歩の側に立つ科学者でありたいと願い活動をしております。今回の天皇問題にしても、何が歴史の事実であるかを見る時、あまりにも明らかなその戦争責任を率直に表明することこそが、真に平和を愛する者のとるべき態度だと思います。「せめて死ぬ前に国民に、あるいは世界の人々に謝ってほしかった」という声は、戦争時代を経験した日本人の素直な心だと思います。

同時に私どもは、日本における自由と民主主義が非常に脆弱なものであることを、今回の天皇問題を通じて一層憂慮せざるを得ません。テレビも新聞も天皇問題に関する限り明らかに意図的な賛美一色であり、それに反対する論調の存在すら殆ど報道しない異常さにあります。このようなことが放置されるならば、再びあの暗黒の戦争時代に逆戻りしかねないと思います。長崎市長が今後とも勇気と良識による施政を続けられることを心から期待すると共に、私どもも日本の真の平和と発展のために活動することを表明いたします。